



MMWIN[®]みんなのみやぎネット[®]

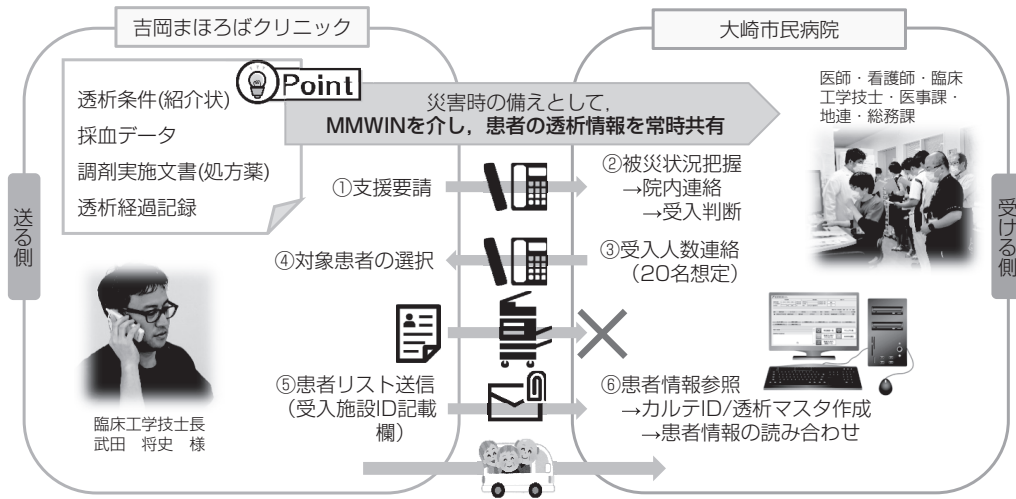
より効率的で、質の高い医療・介護サービス提供のために
Vol. 117

災害時の支援透析を想定したMMWINの利活用

災害時には、施設形態やその地域の特性に応じた対策・対応が求められます。透析施設においては、代替施設へ支援透析を依頼することを想定しておく必要がありますが、特に患者情報や透析条件をどのような方法で伝達するかについては、患者さんが早期に透析治療を受けるための重要なファクターとなります。

このたび、県北圏におきまして、災害拠点病院である大崎市民病院様と吉岡まほろばクリニック様（大和町）との間で、MMWINを利用した支援透析要請の訓練が行われました。この背景には、まほろばクリニック様が2015年の東北豪雨や、2019年の台風19号で被災された際、他院への支援透析要請に多くの時間と労力を費やされた苦い経験があります。

今回の訓練にあたり、2015年、2019年と同等の被害状況を想定し、事前にMMWINの運用フローの検討を重ねました。そして、訓練当日には、どこまで迅速に、かつ安全に患者情報を授受できるかといったメリットや、運用上の課題について検証を行いました。




検証結果	Before (2015年被災時)	After (今回の訓練)
まほろばクリニック	6時間 ・FAX送信に比べ大幅に時間と手間が減った ・実際の災害時に役立つと感じ、運用が定着するよう定期的な訓練を実施したい	1時間
大崎市民病院	5～6時間 ・FAX受信に比べ、患者情報を取得するまでの時間を短縮できる分、初動が早くなる ・患者リストにカルテID欄を設けたことで、新規ID発行や透析マスタの作成がスムーズにできた ・MMWIN上から透析条件の検索・取得に時間を要したため、次回以降の訓練で改善したい	2～3時間

今回の目的は、透析条件など受け入れに必要な情報を、送付する処理自体を「なくす」ことでした。結果的に、被災時と比べ大幅な時間短縮に成功いたしました。また、被災直後には想定内・外含め、限られた人員、時間でさまざまな対応が必要となる可能性もあり、時間短縮分を別の業務・対応に充当できる点もメリットとして挙げられます。この訓練の詳細については、2024年6月24日、透析施設を対象とした県北地域における災害対策会議にて報告されました。

宮城県は全国的にみても透析患者が多く、その中でも割合が高い県北圏においては、災害時以外の場面においても円滑な施設間連携が期待されておりますので、引き続き、さまざまな活用プランをご提案いたします。

お問合せ先： 一般社団法人みやぎ医療福祉情報ネットワーク協議会
Miyagi Medical and Welfare Information Network (MMWIN)
【住所】仙台市青葉区一番町1-15-19 【WEB】<http://www.mmwin.or.jp>
【TEL】022-395-6312 【FAX】022-395-6313 【E-mail】office@mmwin.or.jp



『MMWIN』、『みんなのみやぎネット』は、一般社団法人みやぎ医療福祉情報ネットワーク協議会の登録商標です。